



経理・財務サービス・スキルスタンダード2.0

内部統制のスキルスタンダード

経済産業省の委託事業「経理・財務サービススキルスタンダード2.0開発プロジェクト」が三月中に完了する。「経理・財務サービス・スキルスタンダード」(以下、経理・財務SS)は経理・財務の業務プロセスを標準化・可視化したもので、グローバル化やグループ経営への対応に際して標準化を迫られる経理・財務部門の業務改革を支援することなどが狙いだ。今回のプロジェクトは、内部統制の強化に取り組み企業から、経理・財務SSに内部統制の項目を付加できないかといったニーズが寄せられていたことに対応するためのもの。従来の経理・財務SSの体系の上に、それぞれの業務プロセスについて視点「リスク」「コントロール」「コントロール頻度」「スキル標準」を定義したものが成果物として公表される。いわゆる(RCM)リ

スクコントロールマトリックスの標準として、これから日本版SOXへの対応に取り組み企業に役立つものと期待されているが、より幅広く経理・財務の若手スタッフの育成に取り組みたい企業のニーズにも応えることに配慮した内容となっている。

現役の経理・財務幹部による検討

このプロジェクトは、NTTビジネスアソシエ、プロティビティ・ジャパン、日本CFO協会の三社によるコンソーシアムを事務局として、企業の経理・財務幹部を中心に構成された委員会の検討を交えて進められた。今回作成する内部統制分野のスキルスタンダードについても、能力診断の手法が検討されており、今後この分野における新たな検定や教育手法の実用化も期待されている。

委員会メンバー (五十音順) *は委員長

- 伊藤 一郎 旭化成 取締役兼副社長執行役員
- 江南 清司 TDK 取締役常務執行役員経理部長
- 小倉 正道 富士通 代表取締役社長CFO
- *木村 幸彦 公認会計士
- 前経理・財務サービス・スキルスタンダード研究会委員長
- 同研究会ワーキンググループ座長
- 白石 学 同研究会制作本部長 会計担当編集主幹
- 高野 直人 前経理・財務サービス・スキルスタンダード研究会委員 専務取締役CFO
- 高原 宏 武田薬品工業 コーポレート・オフィサー経理部長
- 藤本 勝則 デュボン 取締役財務部長
- 藤田 純幸 伊藤忠商事 取締役総務部長
- 星野 敏雄 花王 代表取締役常務執行役員

事務局メンバー

- 長谷川和弘 NTTビジネスアソシエ 取締役アカウントマーケティング事業部長
- 神林比洋雄 プロティビティ・ジャパン代表取締役社長
- 谷口 宏 日本CFO協会 専務理事 事務局長

スプレッドシート 統制ガイドライン

内部統制強化を進める上で業務家の頭を悩ませているのが「スプレッドシート統制」だ。スプレッドシートに対する統制は、日本版SOXでも明確に要請されているものの、現状さまざまな内部統制に関する指針を見ても、スプレッドシート統制のための詳細な方法論は見当たらない。またその一方で、スプレッドシートは、その使い勝手、その美観を把握することも難しいという状況だ。

こうした状況を踏まえ、このたびNTTビジネスアソシエ、新日本監査法人、マイクログソフト、日本CFO協会は、スプレッドシート統制のためのガイドラインを共同で作成した。このスプレッドシート統制ガイドラインは、企業の皆様幅広く利用してもらうことを前提にまず草案という形で公表するもの。

このガイドラインは、統制活動が依拠する社内規定を策定する際の指針となるべく内部統制の観点から対象となるスプレッドシートの概念、およびリスクアプローチに基づくスプレッドシートの管理指針を示した。今後、さらに実用的なガイドラインを制定するために、企業のさまざまな実態を考慮してさらに具体的な手続を規定する必要があり、研究会の開催等を通して広く意見を募る予定だ。

より高度で実用的なガイドラインの策定を目指している。

※スプレッドシート統制ガイドラインの草案は日本CFO協会のH (www.cfo.or.jp)でダウンロードいただけます。

FASSが毎日受験可能に

経理・財務サービス・スキルスタンダードに準拠した実務検定として昨年約六千人が受験したF ASS検定(経理・財務実務検定)は、今年四月一日より毎日受験が可能になる。

F ASS検定は、経済産業省委託事業である「高度専門人材育成事業」よりスタートした実務検定で、経理・財務の業務プロセスから幅広く実務の知識を問うこの検定は、企業が経理・財務業務の標準化を進める際の人材育成を支える制度として定着しつつある。これまで一回に及び二ヶ月の試験期間でしか受験ができず、また受験期間が過ぎてもしばらくは結果発表がなされないという利便性の悪さを改善するため、四月一日以降は毎日受験が可能で、かつその場で結果がわかる形にリニューアルすることとなった。F ASS検定は、全国の試験会場で自分の都合のよい日時をを選んで受験することができるほか、パワーチャット(前払いチケット)は一年間有効なので、多忙な経理・財務の方々が今後はずっとリチリと予定を立てて受験に臨むことも可能になる。詳しくは日本CFO協会のF ASS検定H (www.cfo.jp/fass/)。

財務戦略の視点で考える ”不動産ガバナンス”

昨年(二月一日)に、ホテルポール麹町(東京・千代田区)にて、CFOセミナー特別号「財務戦略の視点で考える「不動産ガバナンス」」を開催。不動産取得を狙いとする敵対的買収も目立ってきた現在、企業のあるべき不動産ガバナンスをCFOのテーマとして取り上げた。

第一部では、元みずほコーポレート銀行常務執行役員で現在KKRジャパン代表取締役の養田秀策氏より、いま資本市場で起きている諸問題について概観された後、帝人事務取締役CFOの高野直人氏より、先進企業帝人の事例が紹介された。

続いて第二部では日本CFO協会主任研究委員の二名、佐藤明夫氏(弁護士 佐藤総合法律事務所)と松田千恵子氏(マトリックス代表取締役)、そして古川英一氏(TOKYO企業情報代表取締役社長)、富川秀二氏(三井不動産法人ソリューション部長)によるパネルディスカッションが行われた。

資本市場が企業の資産効率に対する見方は、今後厳しくなっていくことが予想される。未だにノンコア不動産を抱えている企業にとって、もはや不動産は総務部門など不動産管理のセクションだけの問題ではない。事

業ポートフォリオ、資本構成をどうするかといったテーマと同様に、企業のパランス・シートの一部として財務的にマネジメントすべき資産として、CEOやCFOのテーマになっている。日本CFO協会では初めて取り上げた「不動産ガバナンス」であったが、二〇〇名に及ぶ参加者で会場は熱気に包まれた。今後も引き続きこのテーマを取り上げていく予定だ。

※本講演の内容は、本号で要約が紹介されている。

フォーラム開催報告

グループ経営時代の 経営管理システムを目指して

二月七日に、東京ミッドタウン(東京・港区)にてグループ経営フォーラム2008「グループ経営時代の経営管理システムを目指して」を開催。このフォーラムは、本誌前号の巻頭特集「CFOから見たIT・情報システムの現状と課題」でご紹介したCFOの課題、についての考察を深めることを狙いとして、日本オラクルのグローバル展開が加速していく中で、経理・財務、経営管理のマネジメントが追い付いていかない現状への解決の糸口として、四名の講師より講演が行われた。

の事例が紹介された。

※松田千恵子氏、小畑哲哉氏の講演概要は、日本オラクル発行の本誌別冊号「CFOから見たIT・情報システムの現状と課題」に収録されている。



発行：日本オラクル株式会社
企画・編集：日本CFO協会



「グローバル化時代のCFO/経理・財務の役割」として日本CFO協会主任研究員の松田千恵子氏(マトリックス代表取締役)のグループ経営の本質をあらためて見直すべきではないかとのメッセージを受け、日本オラクルアプリケーションSSC部部長より加藤貴彦氏(ESM SSC部総括部長)、コンサルタント、安池俊博氏(FIN SSC部シニアコンサルタント)の両名が、具体的なパフォーマンスマネジメントやシステムインフラの必要性を伝え、最後には、日本電信電話財務部門担当部長の小畑哲哉氏よりNTTグループの経理・財務の標準化やシェアードサービス、そしてグループ共通の会計システム導入の具体

